

事業開始前の様子



2 年次に建設した貯水池。雨期に水を貯めることで、生産できる農産物の種類の増加や、乾季の生産が可能となる。



水源がない地区での農産物は、主に雨期にトウモロコシを栽培することに限定されていた。



貯水池・灌漑設備により生活用水を得ることもできる。これにより、水汲みに使用していた時間を農作業に活用することができる。



ミミズ堆肥作りは、しっかりと生成されるまで継続した指導とモニタリングが必要。



家畜の液肥を作るために改良した家畜舎の肥溜め。十分な液肥を得るためには、改良後もモニタリングと傾斜の調整等が必要。



家畜の堆肥が野晒しにされ、栄養分が流れてしまう可能性がある。地域資源を有効的に活用するために、継続して発酵方法等の改良を行う必要がある。



天然肥料は作り方のみならず、実習等を通じて活用方法も伝えていく必要がある。



収入増加させた世帯の影響でトマトハウス栽培を開始する世帯が増えている。低カースト住民も、トマトハウス栽培により農業を中心に生計が立てられるようになる。



2 年次で、ネピアや桑の有効性が高いことが確認され、100 世帯が栽培開始を希望している。農地の縁や等高線に沿って植え付けることで、土壌浸食改善と、飼料不足改善の効果が得られる。



植え付けられて間もない温州みかん。ジュナール、ライムを含めて国内で需要のある柑橘系農産物の栽培技術普及を進めることで、収穫を迎える数年後には、裨益住民が販売を通じて生計向上に繋げることが見込まれる。



集荷・情報センターの建設予定地。農産物とミルクの効率的な販売及び地域住民が情報交換を行うことのできる拠点となる。



住民が朝方に採取したミルクを中間業者が買い取る。集荷・情報センターに設置する冷蔵設備によって、組合による販売や夕方に採取されるミルクの販売も可能となる。